

2009年3月期 第2四半期決算説明会
(2008年4月-9月期)

LECIP

レシップ株式会社

東証2部・名証2部:[7213]

2008年11月

▶ 1. 事業セグメントの内容について

2. 2009年3月期 上期業績の概要

3. 重点課題の進捗状況

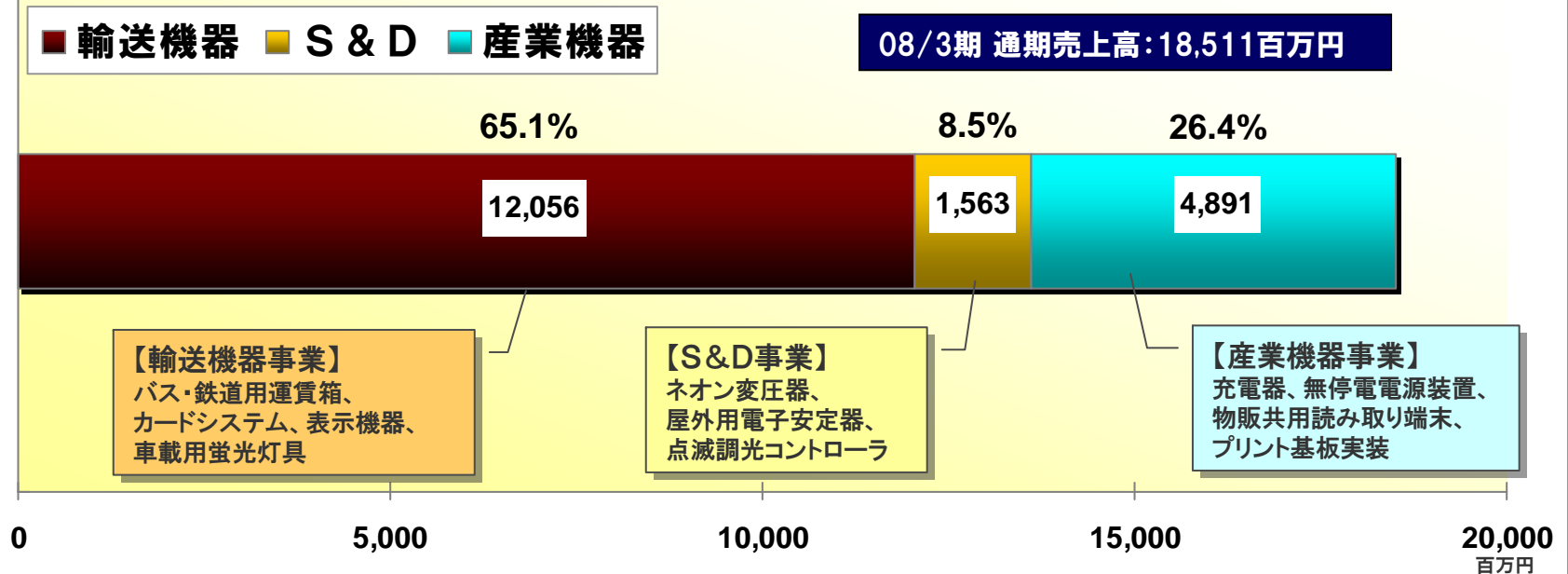
4. 通期業績見通し・配当の状況

▶ 輸送機器事業

▶ S&D(サイン&ディスプレイ)事業

▶ 産業機器事業

08年3月期 通期の事業セグメント別売上高



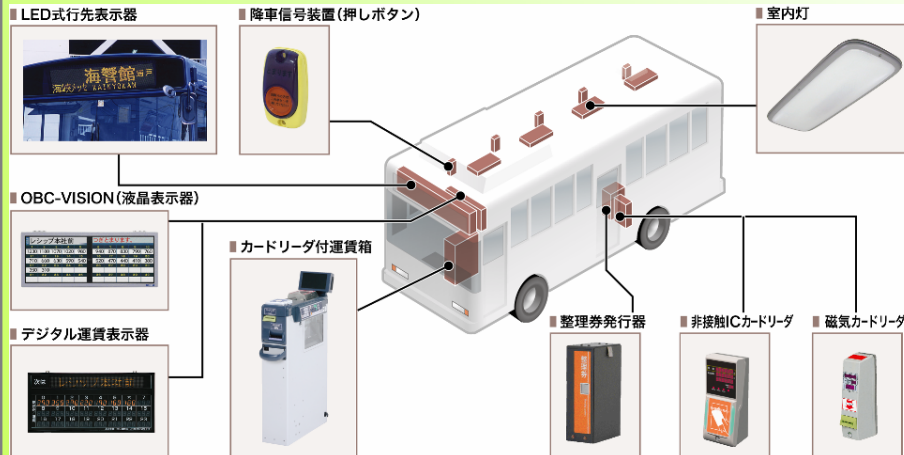
輸送機器事業

バス市場向け製品



- 国内唯一のバス用電装機器トータルサプライヤー
- 多くの製品で国内トップシェアを獲得
- バス用ICカードシステムの売上拡大

=====【バス用機器搭載イメージ図】=====



鉄道市場向け製品



- ワンマン鉄道機器と、車両用蛍光灯具を展開
- 鉄道用運賃箱は、国内90%以上のシェアを獲得

自動車市場向け製品



- 自動車用蛍光灯具のパイオニア
- 国内70%以上のシェアを獲得

▶ S&D事業



(巻線式) ネオン変圧器 (電子式)



屋外用LED電源



屋外蛍光灯看板用電子安定器



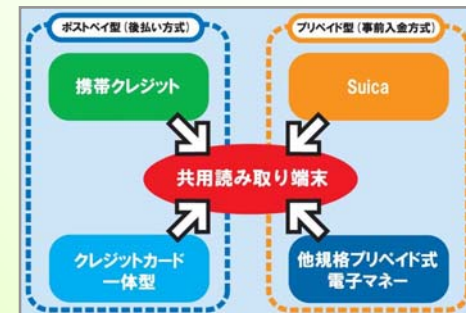
ネオン灯具CCL

- ネオン変圧器で、国内トップシェアを獲得
- 「屋外広告用電源の総合メーカー」への転換を図るべく、新規製品の拡販に注力
 - ・屋外蛍光灯看板用電子安定器
 - ・屋外用LED電源
 - ・ネオン灯具CCL

▶ 産業機器事業



フォークリフト用充電器



物販共用読み取り端末



プリント基板実装ライン



- フォークリフト用充電器で国内トップシェアを獲得
- 複数規格の電子マネーに対応する物販共用読み取り端末の開発・製造
- 連結子会社 レシップ電子にて、プリント基板実装事業を展開

1. 事業セグメントの内容について

▶ 2. 2009年3月期 上期業績の概要

3. 重点課題の進捗状況

4. 通期業績見通し・配当の状況

上期業績のポイント

前年同期比：減収  減益 

マイナス要因

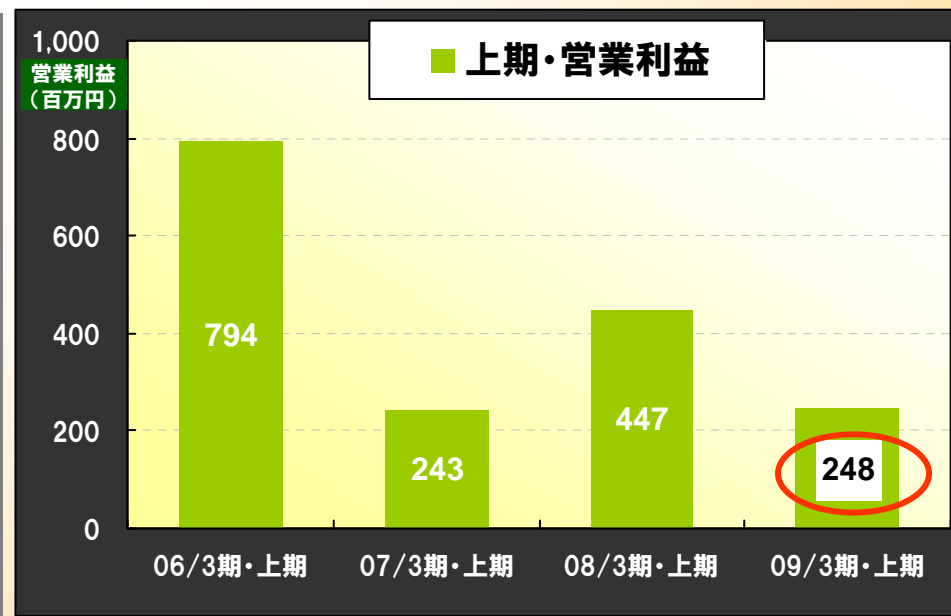
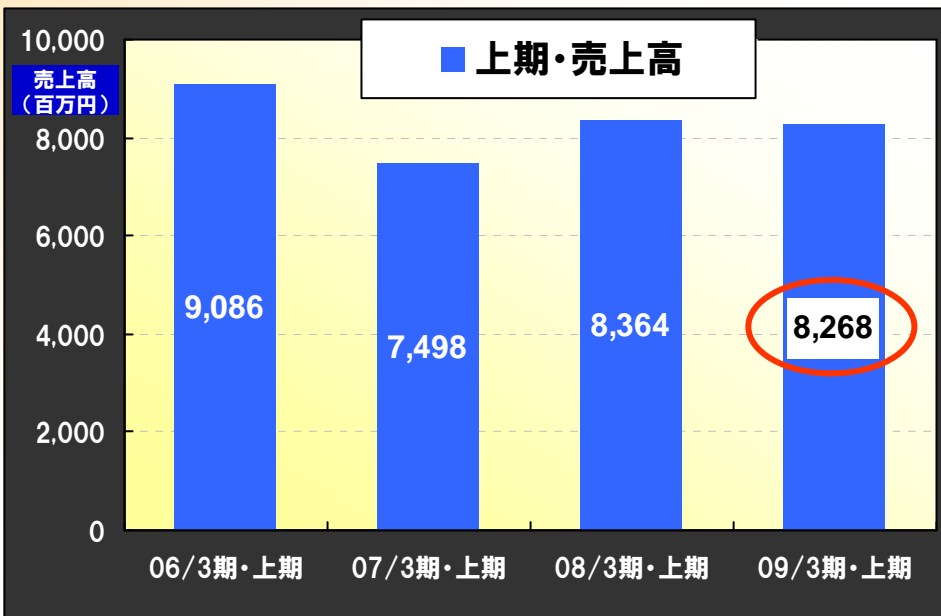
- 物販共用読み取り端末の反動減
- レシップ電子：小型液晶パネル組立て生産の売上剥落・プリント基板実装の初期生産コスト増
- 国内および米国のネオン変圧器が低迷
- 原材料価格の高止まり
- 棚卸資産評価基準の変更に係る評価損(特損)：27百万円
税制改正に伴う減価償却負担増：12百万円

プラス要因

- 主力のバス市場向け製品は、ICカードシステムが、一部、下期にずれ込むも、総じて好調
- フォークリフト用充電器は、堅調推移

2009年3月期 上期 連結業績ハイライト

【連結】 上期 業績概要	前期・08年3月期：上期		当期・2009年3月期：上期					
	①前期実績 (百万円)	構成比 (%)	②5/14当初 業績予想 (百万円)	③10/24発表 業績予想 (百万円)	④当期実績 (百万円)	構成比 (%)	前期比増減額 ④-① (百万円)	前期比 増減率 (%)
売上高	8,364	100.0%	8,710	8,270	8,268	100.0%	▲96	▲1.1%
売上総利益	2,117	25.3%	—	—	1,801	21.8%	▲316	▲14.9%
営業利益	447	5.4%	523	250	248	3.0%	▲198	▲44.4%
経常利益	441	5.3%	521	280	272	3.3%	▲169	▲38.4%
上期純利益	241	2.9%	285	140	138	1.7%	▲103	▲42.7%

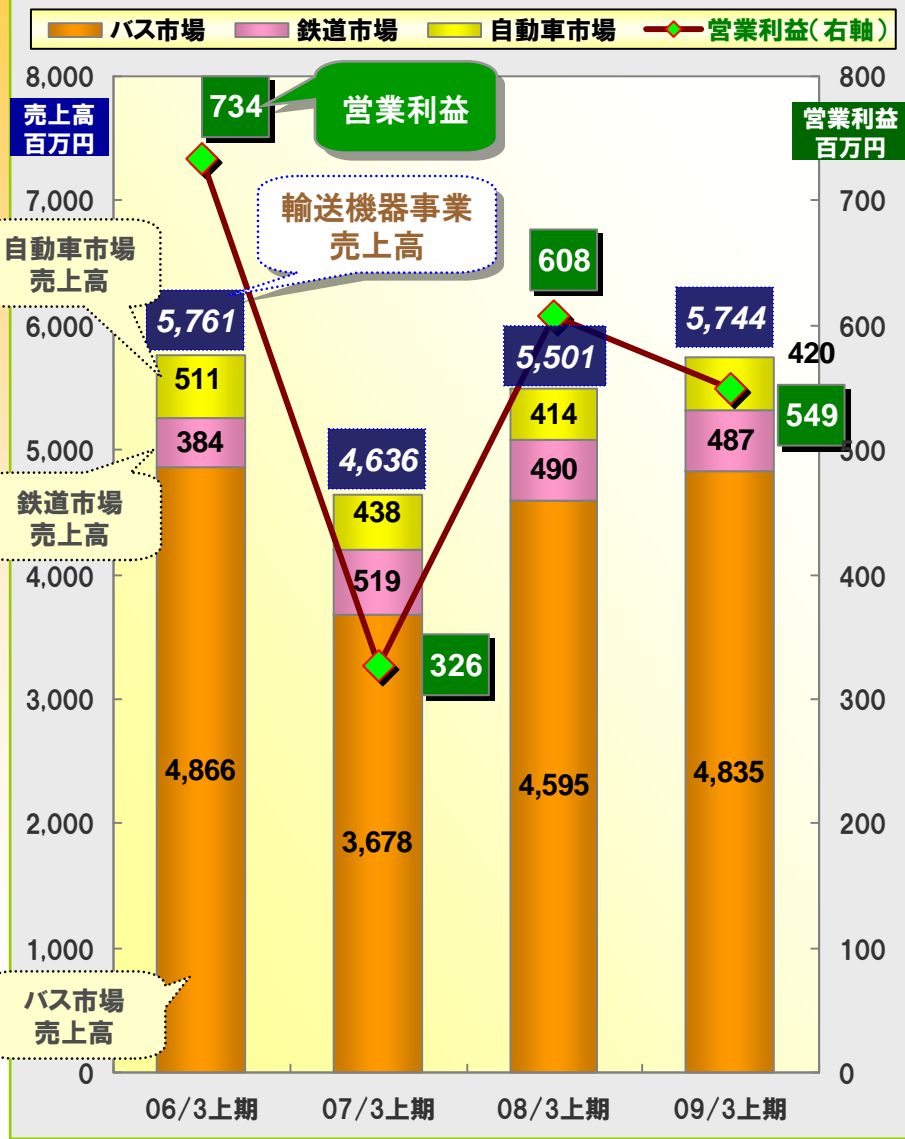


2009年3月期 上期 セグメント別業績

【売上高】	2008年3月期 上期		2009年3月期 上期			
	前期実績 (百万円)	構成比 (%)	当期実績 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
輸送機器事業	5,501	65.8%	5,744	69.5%	+242	+4.4%
S&D事業	738	8.8%	632	7.6%	▲105	▲14.3%
産業機器事業	2,124	25.4%	1,891	22.9%	▲233	▲11.0%
連結売上高	8,364	100.0%	8,268	100.0%	▲96	▲1.1%

【営業利益】	2008年3月期 上期		2009年3月期 上期			
	前期実績 (百万円)	構成比 (%)	当期実績 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
輸送機器事業	608	121.8%	549	192.6%	▲58	▲9.7%
S&D事業	▲192	▲38.5%	▲202	▲71.0%	▲10	-
産業機器事業	83	16.7%	▲61	▲21.6%	▲144	-
計	499	100.0%	285	100.0%	▲214	▲42.9%
消去・全社	(51)	-	(36)	-	▲15	▲29.6%
連結営業利益	447	-	248	-	▲198	▲44.4%

▶ 輸送機器事業：上期・売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 ▲ +2億42百万円 + 4.4%
■ 営業利益: 前期比 ▲ ▲58百万円 ▲ 9.7%

上期のポイント

バス市場製品売上高

前期比: +2億39百万円(+5.2%)

- ▶ 引き続き、堅調に推移
- ▶ ICカードシステムは、一部、下期に期ずれし、前年同期実績を、やや下回る



鉄道市場製品売上高

前期比: ▲ 2百万円(▲0.6%)

- ▶ 蛍光灯は、減少するも、ワンマン機器の納入進む



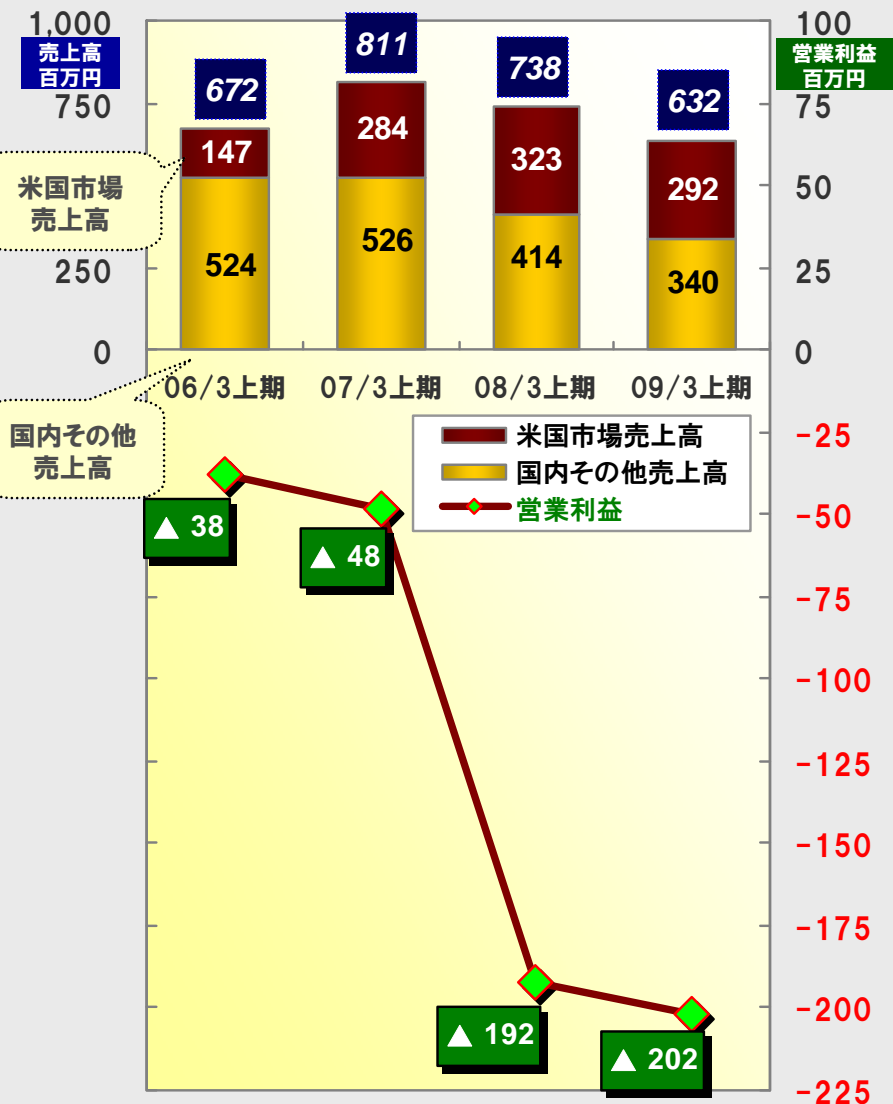
自動車市場製品売上高

前期比: + 5百万円(+1.3%)

- ▶ トラックの需要落ち込みにより、蛍光灯具の販売は減少
- ▶ タクシー用電子マネー決済端末を納入






S&D事業: 上期・売上高・営業利益の推移

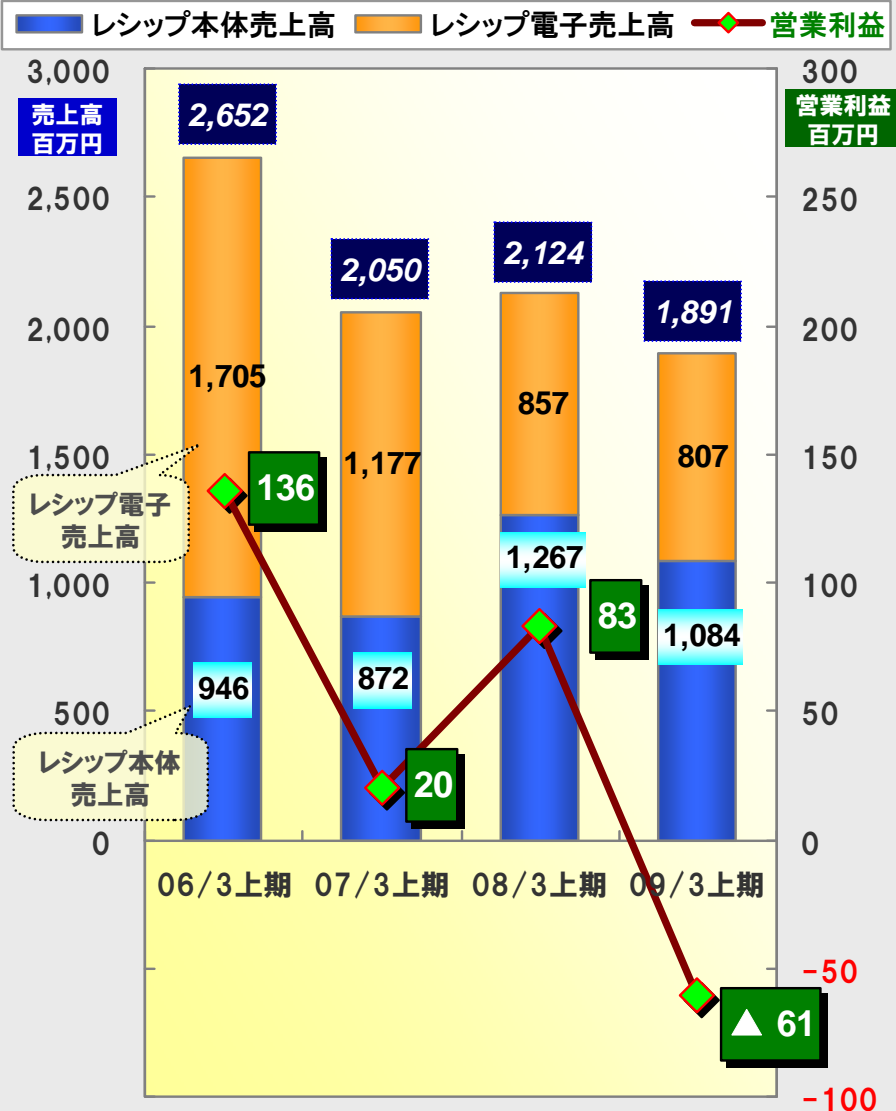


▲ 売上高 : 前期比 ▲ 1億05百万円 ▲ 14.3%
▲ 営業利益 : 前期比 ▲ 10百万円 -

上期のポイント

- 国内ネオン変圧器・小型変圧器・その他**
 前期比: ▲74百万円(▲17.9%)
 ▶ 国内ネオンサイン市場の需要低迷
 
- 米国ネオン変圧器**
 前期比: ▲31百万円(▲9.6%)
 ▶ 米国景気減速、円高の影響
 
- 原材料価格高騰**
 ▶ 銅価格高止まり:
 前年同期比: 5%上昇 3年前の約2倍の水準で推移
 ▶ 鉄価格高騰:
 前年同期比: 40%上昇
- 新規製品の拡販**
 前期比: ▲ 3百万円(▲11.7%)
 ▶ 屋外用電子安定器、屋外用LED電源、ネオン灯具(CCL)の拡販進めるも、上期出遅れ
 

▶ 産業機器事業：上期・売上高・営業利益の推移



■ 売上高 : 前期比 ▲ 2億33百万円 ▲ 11.0%
■ 営業利益: 前期比 ▲ 1億44百万円 —

上期のポイント

物販共用読み取り端末

前期比: ▲ 2億29百万円 (▲ 63.9%)

▶ 前期大幅増の反動減



レシップ電子

前期比: ▲ 49百万円 (▲ 5.8%)

▶ 小型液晶パネル組立て生産の売上剥落
(前期比: ▲ 2億10百万円)

▶ プリント基板実装は、自動車向けが拡大
(前期比: + 1億59百万円)

▶ 新規実装立ち上げに伴う初期生産コスト増が重しに



フォークリフト用充電器

前期比: + 48百万円 (+ 10.2%)

▶ 引き続き堅調維持



■ 上期 連結損益の状況

【連結損益】	2008年3月期 上期		2009年3月期 上期			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
売上高	8,364	100.0	8,268	100.0	▲96	
売上総利益	2,117	25.3	1,801	21.8	▲316	
販売費及び 一般管理費	1,670	19.9	1,552	18.8	▲117	人件費:▲12百万円、 首都圏ICカード初期導入に伴う費用等 :▲49百万円、運賃:▲20百万円
営業利益	447	5.4	248	3.0	▲198	
営業外収益	31	0.4	44	0.5	+12	為替差益:+12百万円
営業外費用	37	0.5	20	0.3	▲16	為替差損:▲10百万円、 支払利息:▲6百万円
経常利益	441	5.3	272	3.3	▲169	
特別利益	5	0.1	22	0.3	+17	
特別損失	7	0.1	41	0.5	+33	棚卸資産評価基準変更に伴う評価損 :+27百万円
上期純利益	241	2.9	138	1.7	▲103	

■ 上期 連結貸借対照表の主な増減項目

【連結貸借対照表】	2008年3月期 期 末		2009年3月期 上 期 末			
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	主な増減要因
流動資産	8,587	74.9	8,035	74.3	▲552	現預金 : +282百万円、 売上債権: ▲940百万円
固定資産	2,882	25.1	2,774	25.7	▲107	有形固定資産: ▲97百万円、 投資有価証券: ▲28百万円
資産合計	11,470	100.0	10,810	100.0	▲660	
流動負債	6,100	53.2	5,484	50.7	▲616	仕入債務 : +150百万円、 短期借入金 : ▲91百万円、 未払金 : ▲340百万円、 未払法人税等: ▲248百万円
固定負債	374	3.3	332	3.1	▲42	
負債合計	6,475	56.5	5,816	53.8	▲658	
純資産合計	4,995	43.5	4,993	46.2	▲1	
負債・純資産合計	11,470	100.0	10,810	100.0	▲660	

1. 事業セグメントの内容について

2. 2009年3月期 上期業績の概要

▶ 3. 重点課題の進捗状況

4. 通期業績見通し・配当の状況

業界環境と、取り組みを進めている重点課題

	業界環境	重点課題
輸送機器	<ul style="list-style-type: none"> ○国内の路線バスの台数は、横這い推移 ○高齢化社会、省資源対策として、公共交通が見直される。 ○導入広がるバス用ICカードシステム 	<ul style="list-style-type: none"> ■ バス用ICカードシステムの全国展開 ■ OBC(オン・バス・コンピュータ)システムの拡販 ■ 海外市場の開拓
S&D	<ul style="list-style-type: none"> ○国内ネオンサイン市場の縮小 ○景気減速の影響により、米国市場の販売も、減少に転じる ○原材料価格の高騰 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 事業構造改革の推進 <ul style="list-style-type: none"> ● 新規製品の拡販 ● 海外事業戦略の再構築
産業機器	<ul style="list-style-type: none"> ○電子マネー決済サービスの導入広がる ○受託先の事業再編や生産調整の影響により、EMS事業が低迷 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 物販共用読み取り端末ビジネスへの取り組み ■ プリント基板実装事業の強化

▶ **輸送機器事業**

取り組みを進めている重点課題

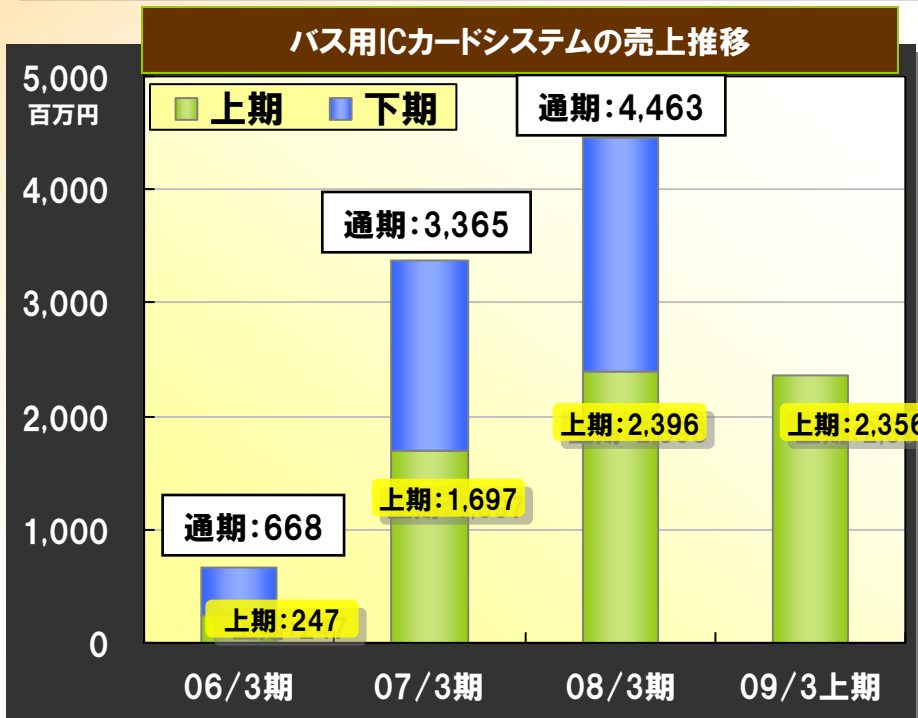
【 バス用ICカードシステムの全国展開 】

【 OBCシステム(液晶表示器)の拡販推進 】

【 輸送機器事業製品の海外市場開拓 】

【バス用ICカードシステムの全国展開】

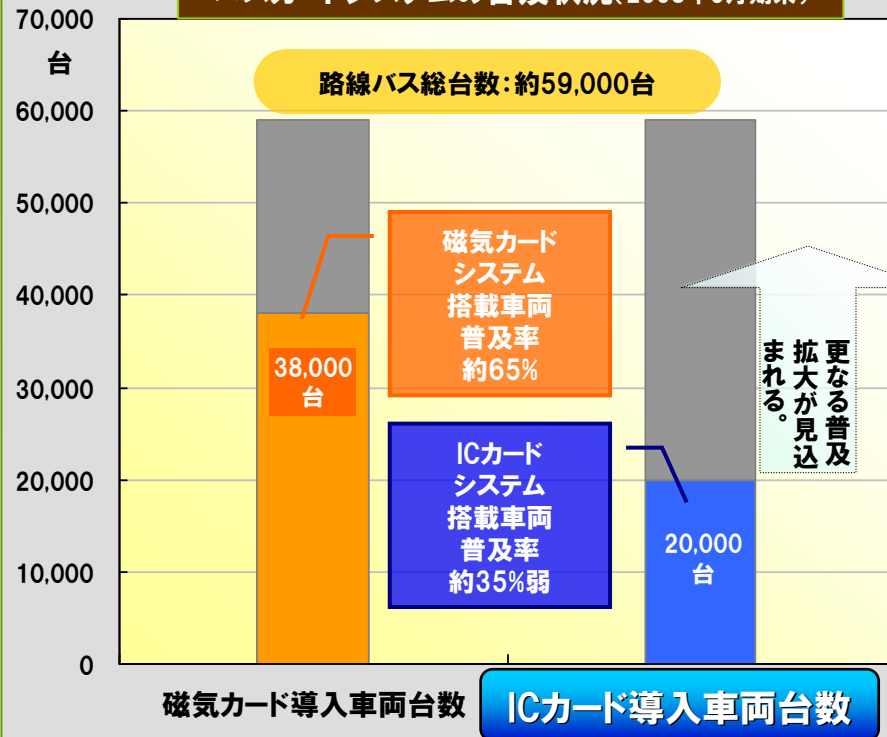
- 首都圏向けへの納入は、今期で、ほぼ一巡
- 福岡地区、広島地区など、首都圏以外の地域への納入拡大
- 通期では、前年並みの売上を見込む
 - ➡ 当初、首都圏向けの反動減の影響により、減少を予想していたが、首都圏以外向けが拡大し、想定を大きく上回る見通し
- 引き続き、全国的な拡販を推進



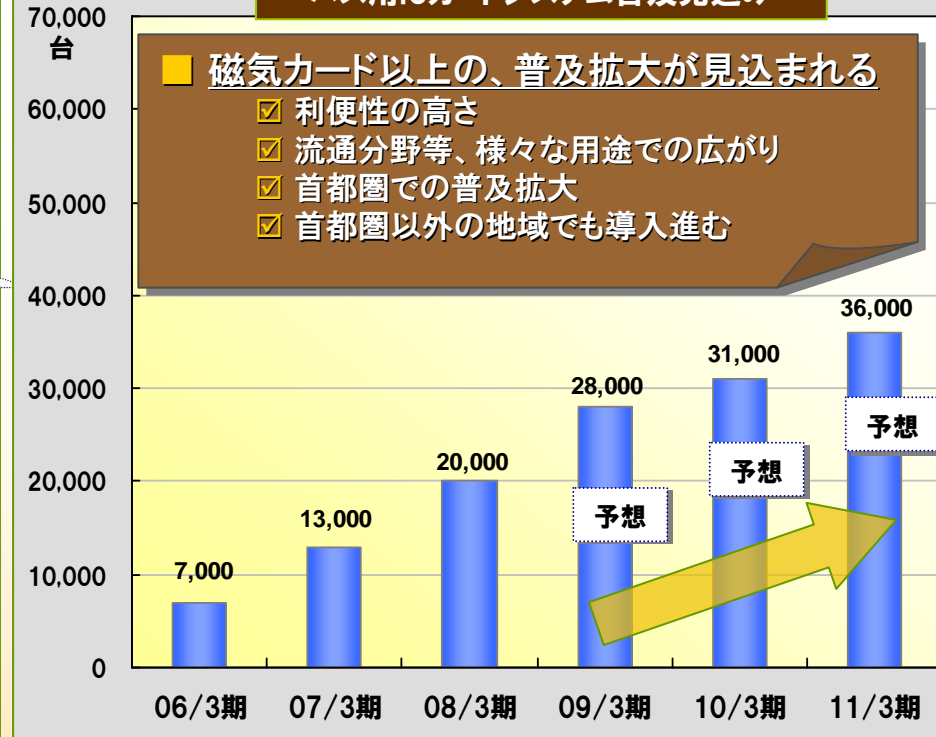
【バス用ICカードシステムの普及見通し】

- 国内の路線バスの台数：約59,000台
うち、従来型の磁気カード式運賃精算システム導入車両台数：約38,000台・普及率約65%
- 現状、ICカードシステムの普及台数：約20,000台・普及率約35%
- 今後、ICカードシステムの普及率は、70%程度まで進むと予想

バスカードシステムの普及状況(2008年3月期末)



バス用ICカードシステム普及見込み



重点課題：輸送機器事業の進捗状況

【 OBCシステム(液晶表示器)の拡販推進 】

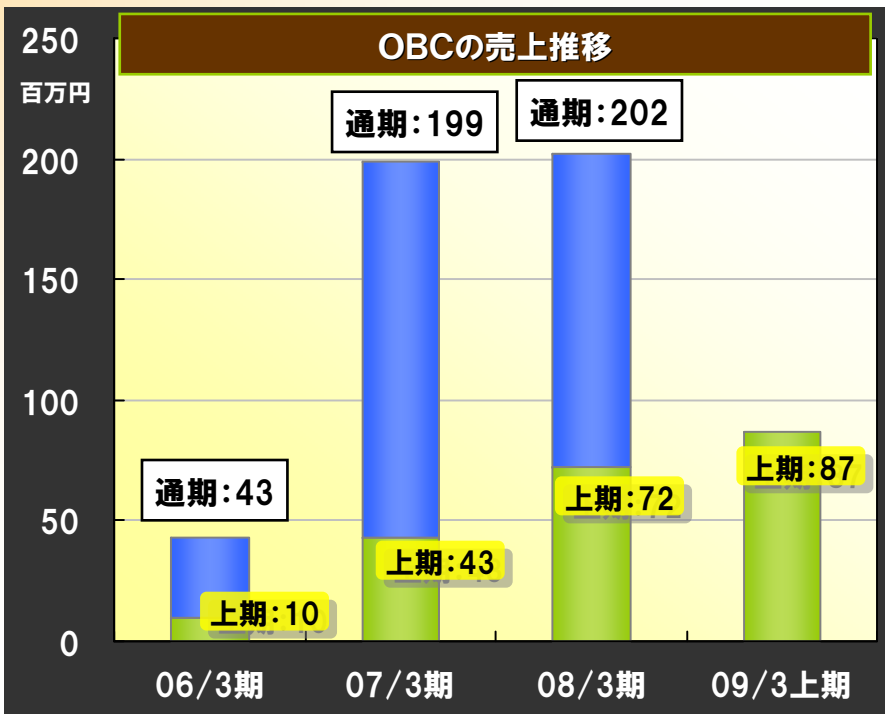
● 乗客の利便性向上

➡ 運賃、路線案内、動画広告等、様々なコンテンツの液晶表示が可能に

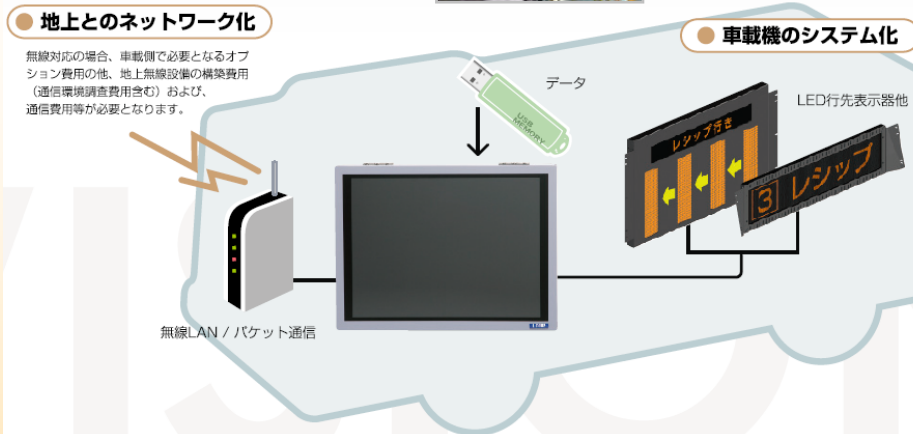
● バス会社の業務効率化

➡ バス車載機器のデータ(運賃データ、表示データ等)を一元管理、集中制御
将来的には、車外と車内の機器をオンライン化、リアルタイムでのデータ更新が可能に

● PC機能を活かした用途開発、ソリューションのご提案を進め、ICカードシステムに続く、基幹商品として、拡販推進

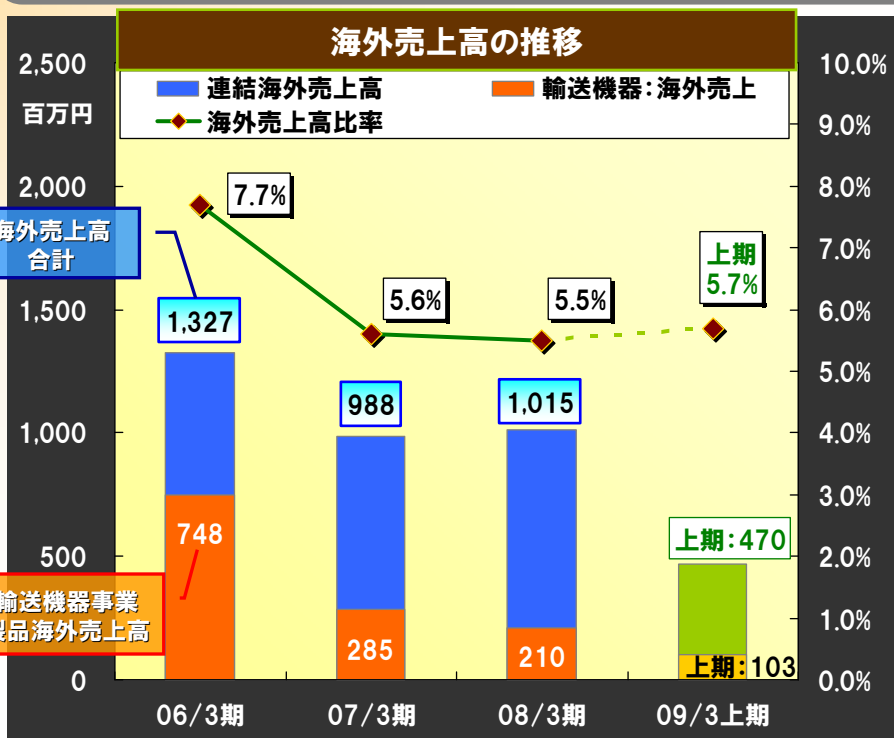


OBC(オン・バス・コンピュータ)システム



【 輸送機器事業製品の海外市場開拓 】

- 中長期的な成長に向けて、主力の輸送機器事業製品での海外市場開拓を推進
- 液晶表示器、LED式表示器などを中心にマーケティング活動
- 米国最大級の公共交通系展示会（International Public Transportation Expo 2008）に初出展
 ➡ 市場ニーズの調査とともに、米国のバス事業者様に、当社製品と、国内での実績をアピール
- 鉄道用蛍光灯具での参入の可能性を検討 ➡ 日本国内車両メーカー様へのアプローチ



米国展示会：当社出展ブース



S&D事業

取り組みを進めている重点課題

【 事業構造改革の推進 】

「売上拡大」と、「コスト削減」に向けた事業構造改革に注力

新規製品の拡販推進

- ▶ 銅や鉄をほとんど使用しない製品の拡販
- ▶ 「屋外広告用電源の総合メーカー」への転換

【新規製品の割合】

現在:約5%⇒来期目標:30%程度

【拡販注力】

・屋外用電子安定器・LED電源・ネオン灯具CCL

海外事業戦略の再構築

- ▶ 米国市場における販売数量の拡大と、商品ラインアップの拡充
- ▶ 業界内の再編が予想されるなか、ビジネス・スキームの見直しも検討

【新規製品の拡販推進】

● 屋外蛍光灯看板用電子安定器

- ▶ 省エネ・環境対応：消費電力・CO2排出量20%～30%削減効果
- ➡ 引き続き、コンビニ等フランチャイズチェーン店などへの採用促進

● 屋外用LED電源

- ▶ ネオン変圧器の充填技術により、優れた防水性・耐久性を実現
- ➡ 今後も拡大が予想されるLED市場を開拓

● ネオン灯具CCL

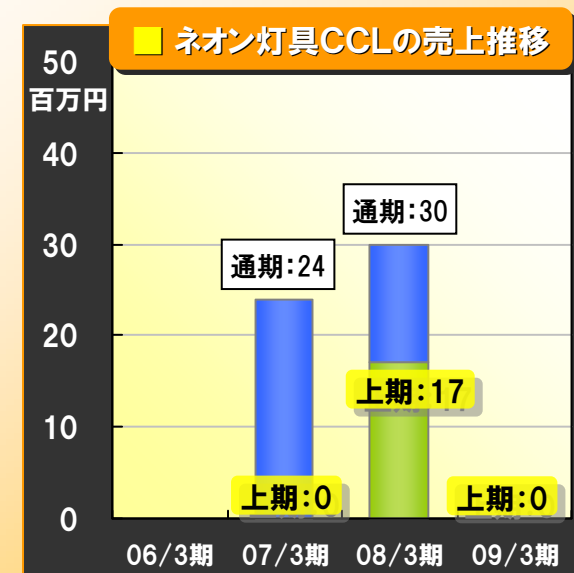
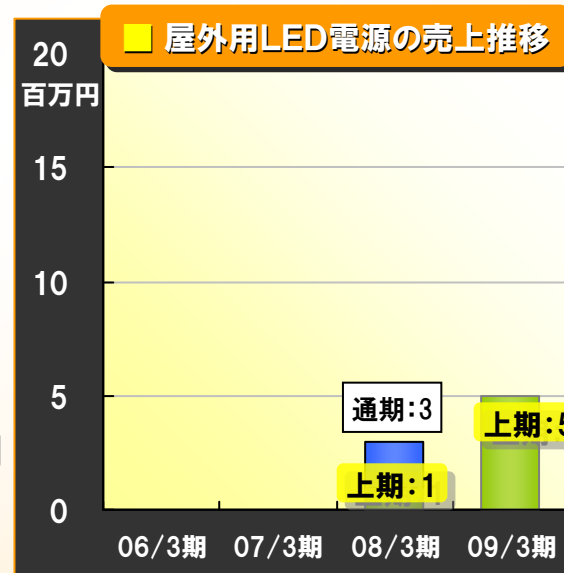
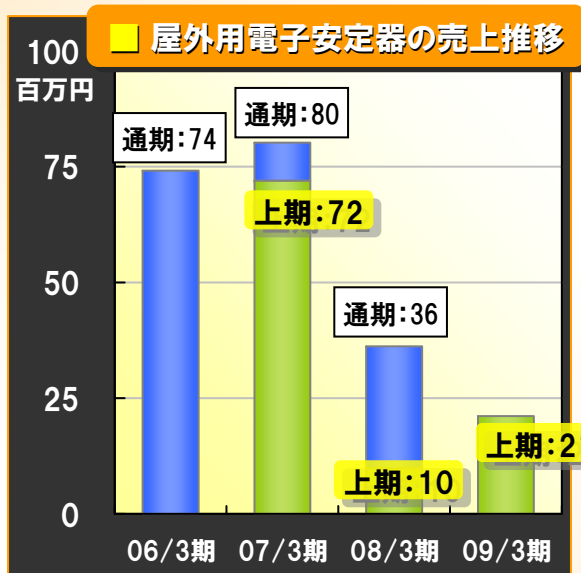
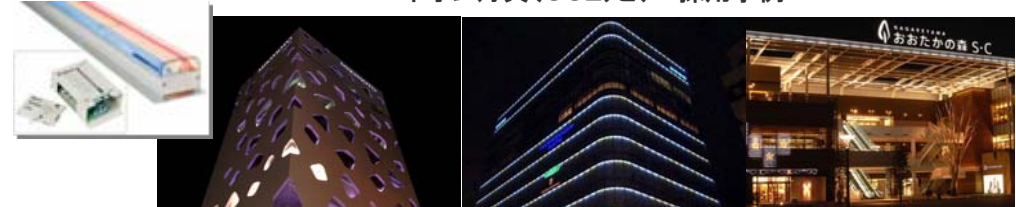
- ▶ 建築・施設照明向けのライティングシステム
- ➡ 新たな市場を開拓

屋外蛍光灯看板用電子安定器

屋外用LED電源



ネオン灯具(CCL)と、ご採用事例



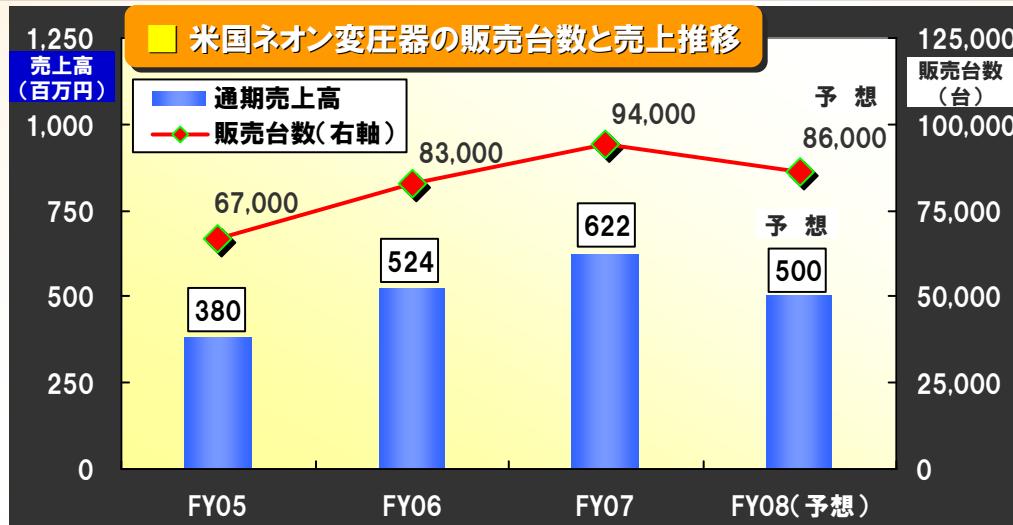
【海外事業戦略の再構築】

米国における販売数量の拡大と、商品ラインアップの拡充に向けて

- 米国のマーケットは、国内の約10倍の規模
- 原材料価格の高騰、米国景気減速の影響を受け、業界内の再編始まる
- これまで着実に拡大を続けてきた、当社の米国市場での販売も、減少に転じる



数量拡大に向けた
ビジネス・スキームの見直しを検討



▶ 産業機器事業

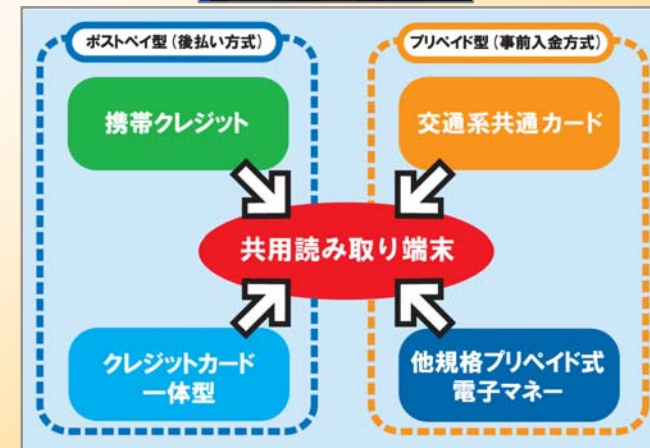
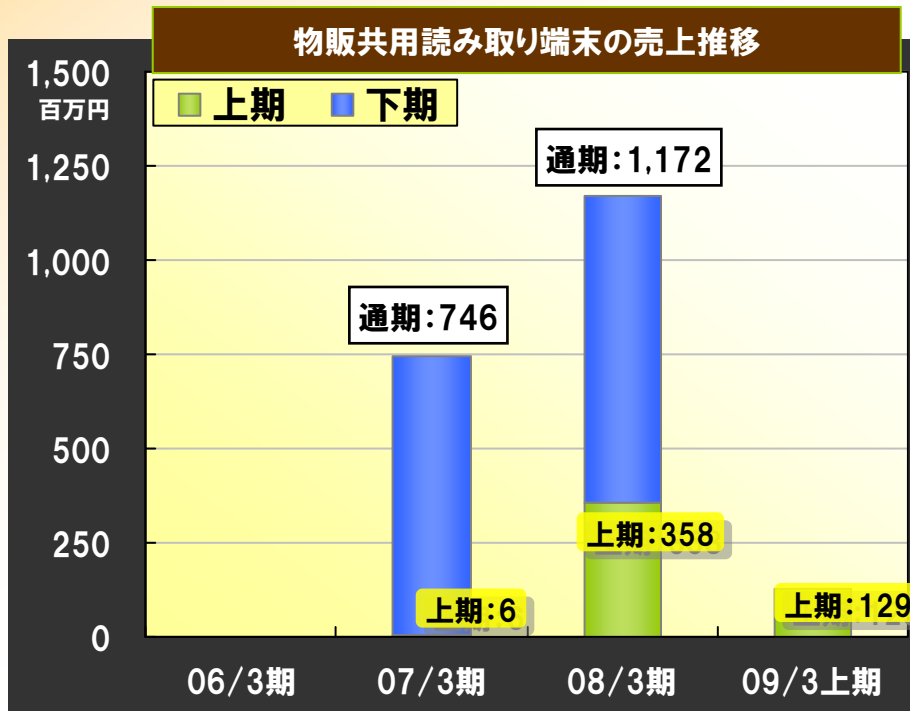
取り組みを進めている重点課題

【 物販共用読み取り端末ビジネスへの取り組み 】

【 レシップ電子・基板実装事業の強化 】

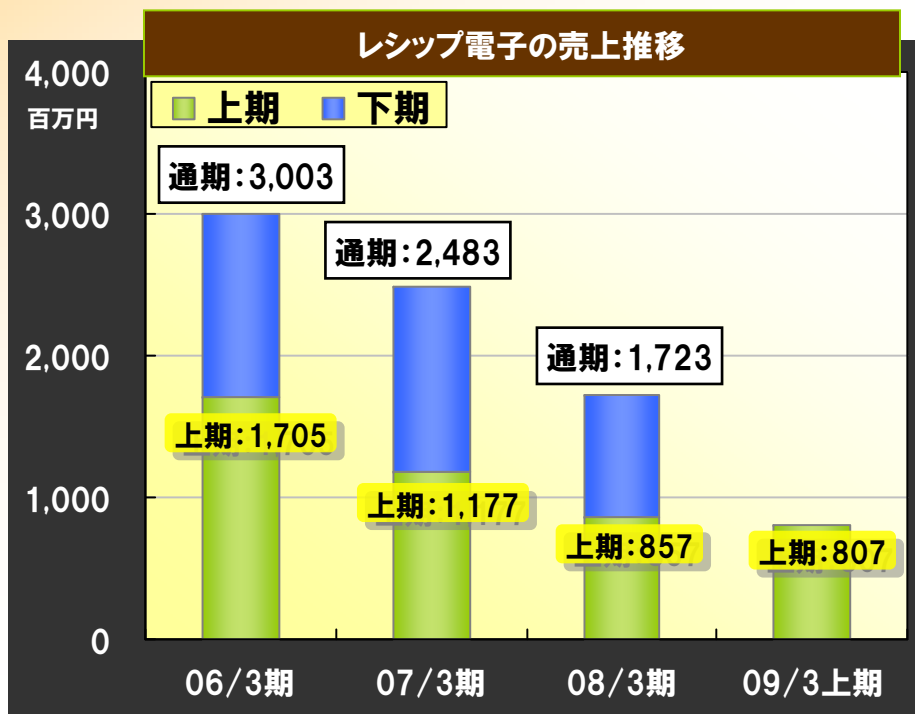
【物販共用読み取り端末ビジネスへの取り組み】

- 電子決済サービスの拡大とともに、共用読み取り端末のニーズ高まる
- これまでの交通系ICカードシステム、香港への納入実績
 ➔ Suica電子マネーを軸とする複数規格電子マネー・共用読み取り端末の開発・製造パートナーに
- 今期は、前期大幅増の反動により減少
- 引き続き、用途の拡大にも柔軟に対応し、売上確保に注力



【レシップ電子・基板実装事業の強化】

- 小型液晶パネルの組立て生産が、前年上期で終了
- プリント基板実装事業での拡大をめざす
- 電子制御化進む自動車用電装品向け基板実装を拡大
- 工数低減に努め、採算面の向上に注力



1. 事業セグメントの内容について

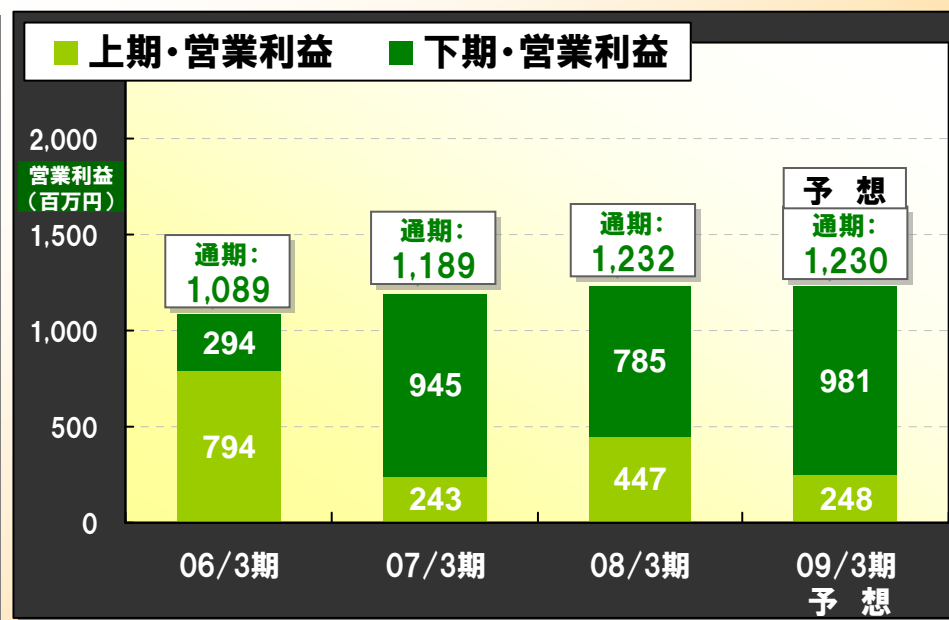
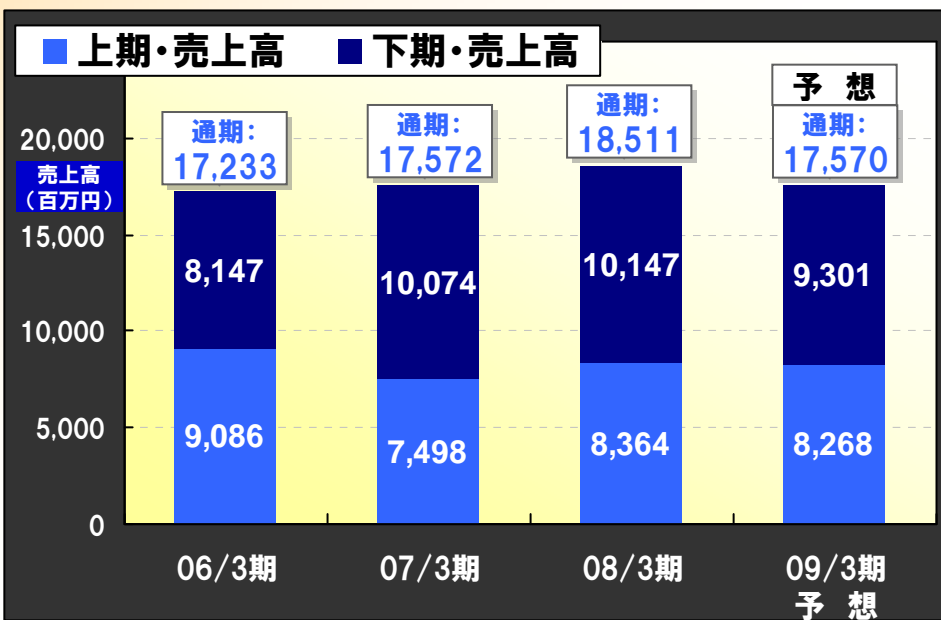
2. 2009年3月期 上期業績の概要

3. 重点課題の進捗状況

▶ 4. 通期業績見通し・配当の状況







2009年3月期 通期業績予想

連結業績予想	2008年3月期		2009年3月期		前期比	
	実績 (百万円)	構成比 (%)	業績予想 (百万円)	構成比 (%)	増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	18,511	100.0%	17,570	100.0%	▲941	▲5.1%
営業利益	1,232	6.7%	1,230	7.0%	▲2	▲0.2%
経常利益	1,208	6.5%	1,220	6.9%	+11	+1.0%
当期純利益	686	3.7%	690	3.9%	+3	+0.6%
E P S (円)	107円38銭	—	107円97銭	—	+59銭	+0.5%



通期業績予想のポイント

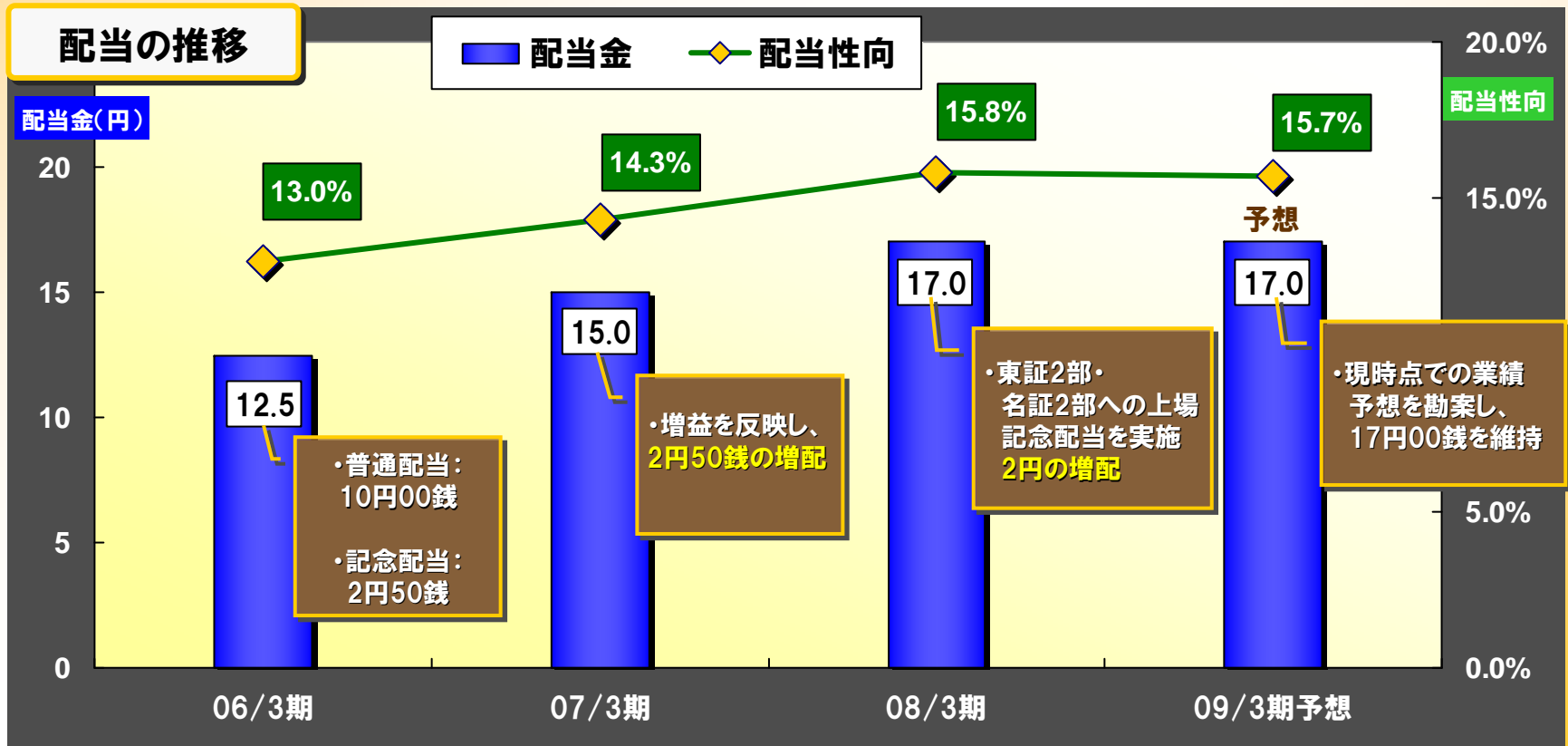
- 上期低迷するも、通期予想は据置き
- S&D事業の米国向けネオン変圧器と、産業機器事業の物販共用読み取り端末が、当初の想定から軟調に推移
- 主力の輸送機器事業のバス用ICカードシステムが想定以上に進捗
下期以降も、首都圏以外の地方都市向けが拡大し、マイナス要因をカバーする見通し

【前期比】	当初予想	今回予想
輸送機器	【減少】  ・バス用ICカードシステムの反動減	【増加】  ・バス用ICカードシステムは、想定を大きく上回り、前年並みの売上見通し
S&D	【増加(改善)】  ・新規製品、米国ネオン変圧器の拡販 ・タイパーツの下落 ・銅価格は高止まり	【増加(改善)幅縮小】  ・増加を見込んでいた米国での販売が、一転、減少見通し ・屋外用電子安定器は、大口先への納入進まず ・タイパーツの下落は、ほぼ想定通り ・銅価格は下落するも、鉄価格は高止まり
産業機器	【減少】  ・物販共用読み取り端末の反動減 ・液晶パネル組立て生産の剥落	【減少幅拡大】  ・物販共用読み取り端末が、想定を大きく下回り、減少幅拡大 ・レシップ電子のプリント基板実装は、自動車向けなど新規の実装拡大するも、初期生産コストが増加

- 2009年3月期の配当予想は、現時点での業績予想を勘案し、当初の予想通り、**17円を維持**

⇒前期の上場記念配当2円を落とすことなく、普通配当に組み込み

- 継続的かつ安定的な利益還元に努める



- 株主優待制度を新設 ～2008年9月末時点の株主様から～
- 優待の内容：**地元特産「富有柿」1ケース**
(Lサイズ・14個入り・2,000円相当)



「富有柿」とは？

柿の王様と称される甘柿の代表種。
渋みの全く残らない完全甘柿で、
岐阜県が発祥の地といわれています。
当社の周辺は、日本有数の柿産地で、
高品質の「富有柿」が栽培されており、
全国に出荷されています。

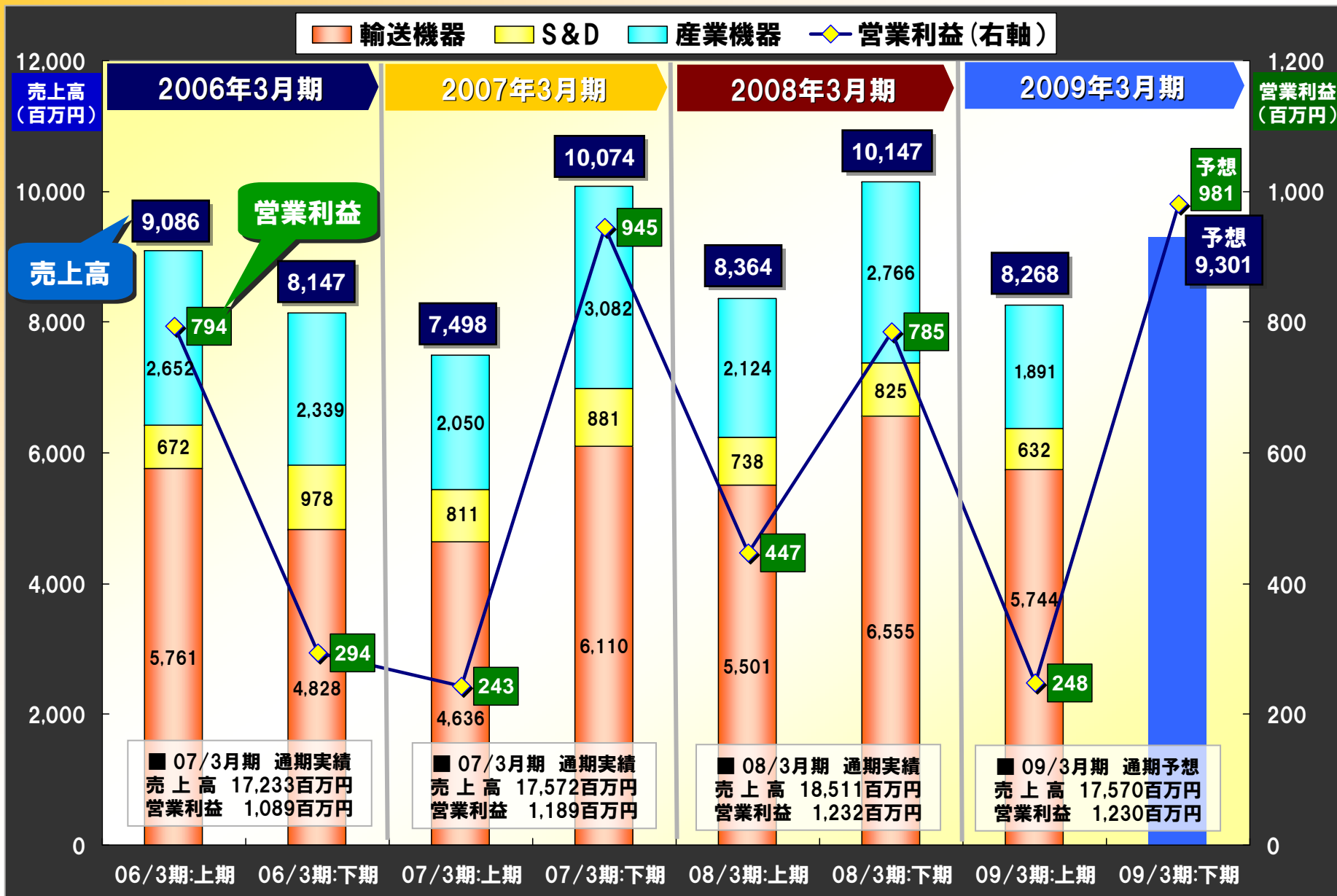
- 対 象：9月末時点の株主名簿に記載された、
100株以上保有の株主様
- 発送時期：11月下旬～12月上旬(予定)

【ご参考】: 主な経営指標の推移

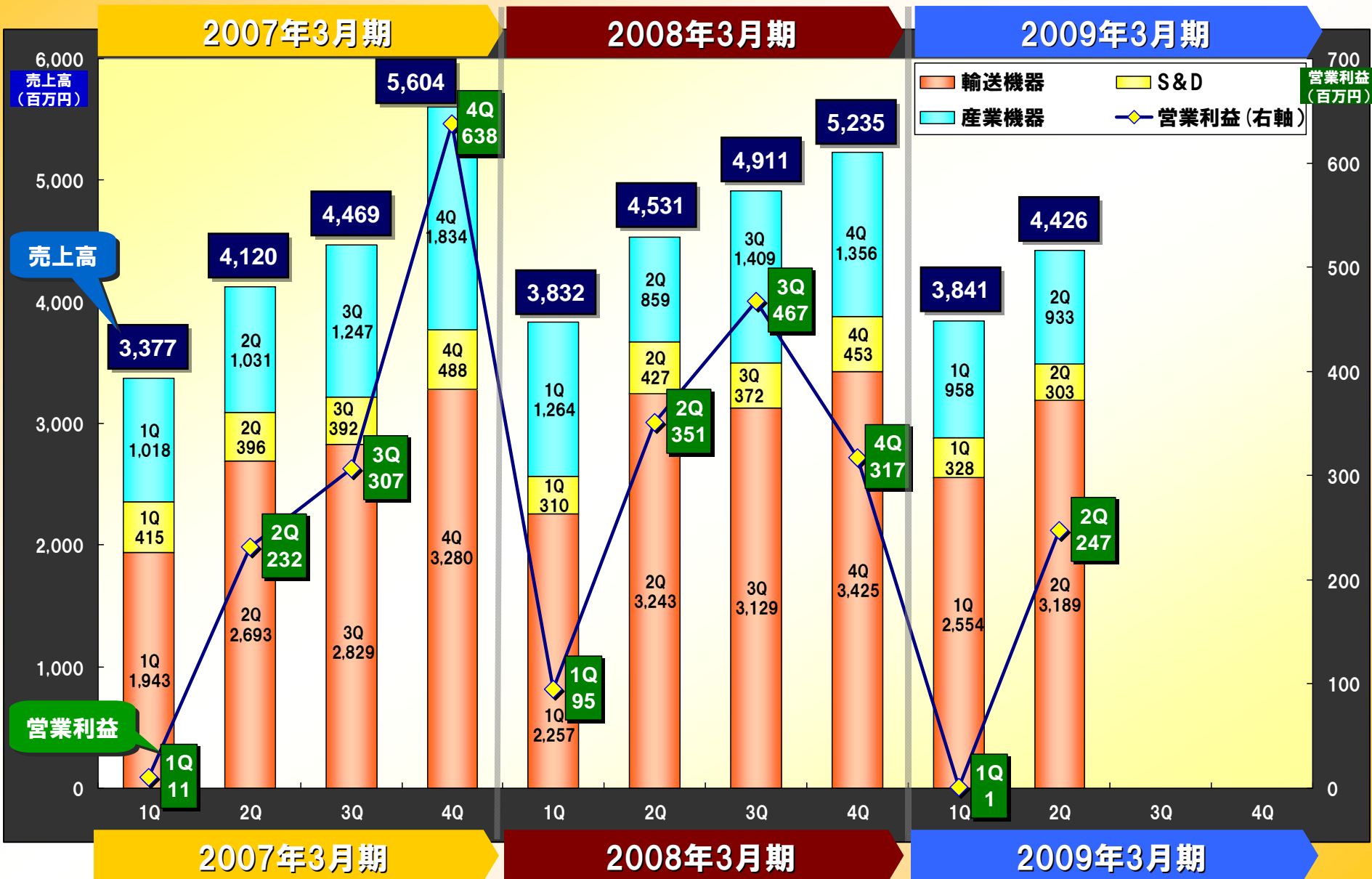
主な経営指標 の推移	2004年3月期	2005年3月期	2006年3月期	2007年3月期	2008年3月期	2009年3月期 予想
売上高(百万円)	15,717	16,346	17,233	17,572	18,511	17,570
営業利益(百万円)	400	1,122	1,089	1,189	1,232	1,230
営業利益率(%)	2.5	6.9	6.3	6.8	6.7	7.0
経常利益(百万円)	390	1,124	1,086	1,191	1,208	1,220
経常利益率(%)	2.5	6.9	6.3	6.8	6.5	6.9
当期純利益(百万円)	▲100	654	622	668	686	690
当期純利益率(%)	▲0.6	4.0	3.6	3.8	3.7	3.9
総資産(百万円)	10,267	10,529	10,512	11,533	11,470	—
純資産(百万円)	1,888	2,519	3,895	4,408	4,995	—
自己資本比率(%)	18.4	23.9	37.1	38.2	43.5	—
EPS(円)	▲18.05	107.70	96.29	104.68	107.38	107.97
ROE(%)	—	29.7	19.4	16.1	14.6	—
BPS(円)	338.36	441.66	599.65	689.82	781.66	—

※2004年3月期につきましては、退職給付制度改革を実施し、確定拠出年金制度への全面移行に伴い、退職給付制度変更損失397百万円を計上したため、当期純損失となっております。

【ご参考】：上期・下期別業績の推移



【ご参考】：四半期ごとの業績推移



LECIP

レシップ株式会社

【資料お問合せ先】

IR担当役員：取締役常務執行役員

管理本部長 山口 芳典

電話番号：(058)323-7647

IR担当者：総務部兼経営管理部 野村 武史

電話番号：(058)324-3121

【将来予測について】

本資料のうち業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と異なる結果となり得ることをご承知おきください。